

一般枠

## 【富山県協議会】

# 高齢者の外出意欲を引き出すおしゃれ支援ロボット

---

委員長：齋藤洋平

プロジェクトコーディネーター ニーズ：中林美奈子

---

シーズ・樫谷 勇

# 1) 協議会の概要

## 協議会の特性（得意分野や検討フィールドなどの特徴）

ニーズ委員は、介護現場と養成校にて基礎教育に関わる作業療法士で構成し、実践現場の課題に教育現場で教える介護の基本（理念やモデル）をフィードバックさせながら、メンバーの問題意識を整理し、統一することから始めた

フィールドは、高齢者介護の今日的な課題である在宅介護に注目し、定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービスへの同行や、自宅への訪問によって家族へのインタビューを行い、生活の場でのニーズ調査を行った

ニーズ調査では、介護サービス提供者（介護職員）にとどまらず、介護サービス利用者（当事者と家族）の声を十分に聞いた

ニーズ委員とシーズ委員の細かな役割分担は行わず、ニーズの把握から機器のアイデアに至る一連のプロセスを、常に一堂に会し協議した

## 協議会の目標

☑ 高齢者の自立支援を促進する方策を提案することを目指す

## 協議会のメンバー構成（職種・人数）

### ニーズ委員

- ・南砺市民病院（作業療法士） 1名
- ・特別養護老人ホームつまま園（作業療法士） 1名
- ・富山労災病院（作業療法士・養成校元教員） 1名

### シーズ委員

- ・富山県総合デザインセンター（産業デザイン） 1名
- ・富山大学工学系（工学・教授） 1名
- ・富山大学芸術文化学系（芸術工学・教授） 1名
- ・NECネットエスアイ株式会社富山営業所 1名

## 2) ニーズの明確化：調査・結果考察

### ニーズ調査の実施概要（目的、方法、対象、人数）

#### 1. 2018年度ニーズ調査

【協議会の問題意識】居宅高齢者の健康とQOLの向上において、「外出・交流」支援が重要な課題となる。地域には通所型サービスや高齢者サロンなどが整備され、外出・交流の機会は準備されているが、「行きたがらない」「途中で行かなくなる」などの高齢者も多数存在しており、その課題解決が必要である

【対象と方法】居宅高齢者とその家族に個別インタビューを行った

【得られた知見】居宅高齢者も家族も、外出・交流の重要性への認識は高いが、外出・交流行動には、「よそ行きの格好に着替えるという準備」が必要であり、このことが行動実行の障壁になっている

#### 2. 2019年度ニーズ調査（深掘り調査）

【対象と方法】X市で在宅介護支援に従事する介護支援専門員、訪問看護ステーションの看護師、通所リハの介護福祉士・作業療法士、訪問介護員、地域包括支援センターの社会福祉士、計7名を対象に、「よそ行きの格好に着替える」支援（以下、おしゃれ支援）のあり方について、約2時間のグループインタビューを実施した

### ニーズ調査のまとめ（調査結果・考察）

#### 【おしゃれ支援の実際】

1. 対象：①外出の重要性への認識を有している人、②外出の目的や外出先がある人、③外出先で服装のおかしさを指摘されると傷つく人
2. 支援場面：①高齢者が自分なりにおしゃれをした場面、②季節や行き先にそぐわない格好をしている場面、③「何着ていけばいいか？」と質問を受けた場面
3. 支援の内容：①外観を褒める、②そぐわないことをそれとなく指摘・修正する、強制はしない、③家にある洋服や小物から自己選択してもらう

#### 【おしゃれ支援に関する介護職員の意図（ケアの本質）】①自尊心を高める、②経済的配慮

#### 【おしゃれ支援に関する介護職員の意図を実現するために】

1. 介護職員が捉える障壁：①限られた訪問時間の中でおしゃれ支援に充てられる時間は少ない。②介護職員としての基礎・現任教育の中でおしゃれ支援に関する内容はほとんどなかった。③おしゃれ支援の中心技術は「対話」。経験の少ない職員ではうまく会話できないことがある。④すでに着替えてしまった後で、「着替え直してください」とはいえない。着替える前に指摘したい。⑤家族の理解・支援が得られないとうまいかない
2. 技術的に難しいところ：①服装のおかしさをロボット（機械）が認識するのは難しい。②介護職員を助ける情報の提供（会話や更衣技術のノウハウや自助具の情報など）は、データがあれば可能であるが、データを集める・作ることのほうが難しい（調べる気があれば現状でも可能）

## 2) ニーズの明確化：課題分析・解決のイメージ

### 解決すべき課題

◇おしゃれ支援に関するケアの本質は、「自尊感情の向上」にある

◇自尊感情とは、自分についての評価に関する感情のことである。自尊感情は外観、社会的な役割、他人からの評価といった点に対する意識や感覚により形成されるといわれており、自尊感情を高めるためには外部・他者からの肯定的フィードバックが重要になる。すでに職員は「褒める」「季節や場にそぐわないとなれば、それとなく指摘」「洋服の自己選択と評価」などの行為により、肯定的フィードバックに基づくおしゃれ支援を提供している

◇しかし、介護職員が捉える障壁や技術的困難などを考慮し、介護職員が大事にしている「自尊感情の向上」を実現するためには、現行支援の「**肯定的フィードバック**」に着目し、介護ロボットと共存することで、質の高いおしゃれ支援が可能となる。また、最終ゴールの「外出意欲の高まり」につながる

### 課題解決の対象者と解決した時のあるべき姿・到達目標

おしゃれ支援（肯定的フィードバック）

#### 居宅高齢者

- ①外出の重要性認識を有している高齢者、
- ②外出の目的や外出先がある高齢者、③
- 外出先で服装のおかしさを指摘されると傷つく高齢者

#### 【高齢者】外出しようという気になる

- 楽しい気持ちになる
- 精神的健康が安定する（落ち込まない、他者にやさしい気持ちになる）
- 介護者とのコミュニケーションが増える

#### 居宅高齢者の家族

- ①高齢者の外出が重要であることを認識している家族、②高齢者の介護を受け入れている家族

#### 【家族介護者】主体的におしゃれ支援に参画する

- 高齢者の気持ちが理解できる
- 高齢者とのコミュニケーションが増える
- 高齢者に外出を積極的に進める

#### 介護職員/地域全体

- ①居宅高齢者に関わる介護職員

#### 【介護職員】おしゃれ支援の実践力の向上

- 質の高いおしゃれ支援が提供できる

#### 【地域全体】おしゃれ高齢者が闊歩する町

- その地域の高齢者が皆おしゃれになる
- 活き活きと外出する高齢者の姿が増える

### 3) 課題解決のための方法：課題解決のための機器（新規ロボットなど）の概念

#### ロボットなどの概念図（ポンチ絵、解決のフロー図、関連図など）



#### ロボットなどの概要

- ①音声出力
  - \* 付加機能として、タッチパネル、音声入力
- ②レコード機能（同じ服防止機能へ）
- ③チェック機能（カレンダー、スケジュール、天候、気温など）
- ④お悩み解決機能、教えて機能、助けて機能

#### 利用場面

高齢者の居宅（施設含む）

#### 期待される導入効果

- 【高齢者】高齢者の外出意欲が高まる
- 【家族介護者】家族が主体的におしゃれ支援に参画する
- 【介護職員】おしゃれ支援実践力の向上
- 【地域全体】おしゃれ高齢者が闊歩する町の実現

### 3) 課題解決のための方法：課題解決のための機器（新規ロボットなど）の具体例

項目	概要
必要な機能・技術	①音声出力 付加機能としてタッチパネル、音声入力 ②レコード機能（同じ服防止機能へ） ③チェック機能（カレンダー、スケジュール、天候、気温など） ④お悩み解決機能、教えて機能、助けて機能
新規ロボットなど導入による課題解決の評価方法	<p><b>評価はいずれも導入前後を比較し、量的・質的に分析する</b></p> <p><b>【高齢者】高齢者の外出意欲が高まる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ロボットの利用状況：利用回数、使用感</li> <li>■外出・交流意欲の変化：意欲評価スケール（CAS、Vitality indexなど）</li> <li>■外出・交流行動：外出頻度、範囲の観察（外出頻度が増加する、社会的広がり：LSAなど）</li> <li>■精神的健康度：QOL評価、認知機能テスト、抑うつ尺度、孤独感尺度などのスケールを活用</li> </ul> <p><b>【家族介護者】家族が主体的におしゃれ支援に参画する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ロボットの利用状況：利用回数、使用感</li> <li>■高齢者との関係性の変化・コミュニケーションの変化（インタビュー、内容分析）</li> <li>■外出促進に関する態度の変化（インタビュー、内容分析）</li> <li>■自分なりの介護観の表出（聞き取り調査）</li> </ul> <p><b>【介護職員】おしゃれ支援の実践力の向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ロボットの利用状況：利用回数、使用感</li> <li>■おしゃれ支援のあり方観の表出（聞き取り調査）</li> </ul> <p><b>【地域全体】おしゃれ高齢者が闊歩する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ロボットの利用者の増加</li> <li>■通所型サービス、高齢者サロンなどの利用状況：利用率、中断率（既存資料による集団評価）</li> </ul>
既存/類似機器との相違点・優位性	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆既存の機器、類似機器は見当たらない</li> <li>◆要介護高齢者にとどまらず、いわゆる元気高齢者、中高年などへの汎用性が期待できる</li> </ul>